

2021 年度 事業計画

施設名 グループホームきぬた

1 利用状況

事業種別 重度身体障害者グループホーム 定員 5人 利用者 5人

(1) 障害支援区分

区分6	4人	区分5	1人	区分4	0人
区分3以下	0人	計		5人	

(2) 障害の程度

		身体障害者手帳				計
		1級	2級	3~7級	なし	
愛 の 手 帳	1度					0人
	2度	1人				1人
	3~4度					0人
	なし	4人				4
計		5人	0人	0人	0人	5人

(3) 年齢、性別

10代以下	0人	40代	0人	男性	5人
20代	0人	50代	4人		
30代	1人	60代以上	0人		
計			5人		

※平均年齢：51.2歳（4月1日現在）

2 事業実施状況

(1) 活動・支援の内容

概要

- グループホームは入居者の「わが家」であり、主権は入居者にあることを支援の原則とする。一人ひとりのニーズを確認し、それぞれのライフステージに沿った支援をチームで考え、実践していく。
- 入居者の意見や心配・希望を軸に、ご家族、ヘルパー事業所、通所先や医療機関との連携を積極的に行う。
- 支援の原則は、結論を急がず、時間をかけて、情報提供の工夫や経験の積み重ねをしながら、その人らしい人生を選び取っていくプロセス自体にある。「一緒に悩んで、一緒に取り組み、一緒に成果を喜び合える」ことを大切にしている。
- 一人ひとりの生活を基本とした「外部サービス導入型」グループホームとして、その特殊性を維持し発展させるよう安定した運営を目指す。

(2) 地域交流

- 「きぬたドーナツ通信」の発行が定着しており、ホームページの充実とともに、引き続きグループホームきぬたからの発信を積極的に行う。
- 去年はコロナの影響で中止となったが、砧町自治会を通じた防災訓練やイルミネーションパトロールへの協力が定着している。引き続き地域の自治会活動に協力していく。また、地域のお祭りなどでのフリーマーケット参加など、機会があれば参加する。
- イベントなどの機会も追及しながら、入居者の日々の生活そのもの、例えば毎日の買い物や外出、受診などそのこと自体が地域との交流のきっかけになっている。

### (3) 家族、関係機関との連携等

- ・ 家族会の開催のほか、適宜、連絡や報告、相談につとめていく。特に家族の高齢化に伴い、家族への支援も必要となってきたケースもあり、関係者と連携して支援していく。
- ・ 日々の生活に関わるヘルパー事業所とのミーティングを定期的に行い、入居者の状況の情報共有、連携を強めていく。
- ・ その他、入居者にかかわるたくさんの機関との報告、連絡、相談、そして記録を確実に行う。

### (4) ボランティアや実習生の受入れ

- ・ 昨年、入居者の点字学習を支援するボランティアを募集したところ、2名の応募があった。4月から毎週土曜日に来所していただき支援を開始する。
- ・ ボランティアおよび見学者の受け入れは、外部の新たな風を入れるとともに、当ホームの強みを外部に発信し、理解者・協力者を確保することにもつながるため、感染対策を取りながら受け入れていく。

### (5) 危機管理

- ・ 新型コロナの感染予防対策を引き続き継続する。
- ・ 管理者が不在の場合でも、スタッフ内部での情報共有と関係者への連絡体制のシステムを構築する。
- ・ 玄関の防犯カメラや車両のドライブレコーダー設置など防犯対策を検討・実施する。
- ・ 引き続き、夜間想定や実際の日没後の避難訓練を、地震や火災の想定で繰り返し行う。

### (6) 職員研修の実施

- ・ 2021年3月から開始した「入居者の心とからだについて考える勉強会（ケーススタディ）」を定例化し、グループホームスタッフのみならずヘルパー事業所にも声をかけ、障害の理解やケアの向上を図る。
- ・ 「障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会」全国大会に参加し、各地の運営や実践から学び、当ホームの運営や実践に生かしていく。
- ・ この他、法人研修や外部研修にも非常勤職員が参加できるよう勤務を調整する。

## 3 重点課題と取り組み

2021年度は以下の点を重点課題として取り組む。

### ① 感染予防と入居者の健康維持

入居者の高齢化に伴い健康面での不調や不安が出てきている。新型コロナの感染予防策を継続するとともに、感染状況を見ながら治療が必要な疾患については、関係者と連携し対応していく。入居者自身も自分の健康について考えられるよう支援する。

### ② グループホームきぬたの独自性の発信

「きぬたドーナツ通信」やホームページを充実させ、きぬたの独自性を発信するとともに、入居者自らが地域に発信できるようにする。

### ③ 入居者のケーススタディの積み上げによる支援の質的向上

「入居者の心とからだについて考える勉強会（ケーススタディ）」を定例化し、職員・ヘルパー、専門職とともに学び合い、障害の理解や支援の共有、支援の質的向上をめざす。